

取締役会の実効性評価にあたって

オムロンは取締役会の実効性評価をスタートするにあたり、独立社外役員で構成するコーポレート・ガバナンス委員会において、取締役会を誰がどのように評価し、その結果をいかに今後の取締役会の実効性向上につなげていくのかという全体のフレームについて議論を重ねました。

正しく評価するためには客観性が重要ですが、一方で形式知的な評価では、取締役会の実質的かつ自律的な実効性の向上は図れません。この実効性と客観性の両方を担保するために、オムロンは、取締役会を構成する全役員による自己評価の結果に基づいて、コーポレート・ガバナンス委員会が取締役会の実効性評価を実施することにしました。加えて評価については改革・改善の余地という観点を重視しました。

評価結果については、厳しい意見と問題点の改善策も含めて取締役会に報告しました。オムロンを良く知り、共に経営を監視監督する立場にある社外取締役、社外監査役による評価として、真摯に受け止めてもらえたと考えています。

取締役会は、今回の評価結果を受けて設定した運営方針の実行に、早速取りかかっています。取締役会の実効性評価が変化のきっかけとなり、取締役会がさらに充実した意思決定の場となっていくことを期待していますし、コーポレート・ガバナンス委員会としてもその進捗を確認していきたいと思えます。

2016年7月
社外取締役
コーポレート・ガバナンス委員会委員長
富山 和彦
株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO

